

優秀賞

昔と今の私

共愛学園前橋国際大学3年 岸華鈴

私は三年程前まで、やりたいことも出来ない女の子だった。周りの目が異様に気になり、人と違うことを恐れ、自分の興味と感情から目を逸らすのが得意だった。やりたい学級委員の立候補にも、授業中に答えたい問題にも、私は手を挙げられなくて。任意のボランティアも課外活動も「興味のある人は話を聞きに来て」という先生のところに行くことさえ出来なかった。その時の感情を光景を葛藤を、今でも私は覚えている。稀に蓋を開けてあげると、そういった沢山の「気になる」や「やりたい」が溢れてきて、当時の自分を思い出しながら「失敗したな」と思うのだ。

この失敗たちは、いつまでも根強く私の中に残っている。きっと、やらないという選択をしてしまったら、それ以上も以下も手に入らないからだろう。「やっていたら」と、もしもの自分を考えることしか出来ないのは、苦しいことなのだと、私は何年もかけて学んだ。

私は三年程前から、やりたいことが出来る女の子になった。自分の興味と感情を真っ直ぐに見つめ、少しでも心の揺れとトキメキを感じたら、話を聞きに行けるようにもなった。やりたいことに手を挙げられるようにもなった。今でも周りの目は気になるし、人と違うことは怖い。けれど、いつまでも「やっていたら」と、もしもに束縛されるよりは、心地良いものだった。

私が大学入学を機に、今の自分になってから気づいたことがある。それは昔していた失敗をしてしまうと、その後に失敗する権利も失ってしまうということだ。失敗から学べること、成功から学べること、沢山あるだろう。しかし最初の失敗をしてしまったら、やっぱり何も手に入らない。最初の失敗をしなくなった今、挑戦した結果の失敗は明らかに増えたけれど、友達も経験も自信も前よりも好きな自分も得ることが出来た。そして何より、以前よりも毎日が楽しい。